

## 論文要旨

専攻名 (又は推薦専攻名)	地域イノベーション学専攻	氏名	いづたに かずあき 泉谷 和昭
学位論文題目 コミュニティ公共施策におけるインセンティブシステム活用に関する研究 — 有償ボランティア・ドライバーによる紀北町「あいのり運送」実証事業をとおして — (英訳又は和訳: Study on Utilization of Incentive Systems for Community Public Measures Through the Social Experiment of Rideshare in Kihoku-town Using Compensated Volunteer Drivers )			
<b>【課題提示】</b> コミュニティの活性化を目指す様々な公共施策を定着させるためにはコミュニティメンバーや関係する人々の自発的な参加・協力が欠かせない。特に、コミュニティメンバーが運営側に協力する様なインセンティブ構造があれば有効に機能する可能性がある。そのような仕組みとして経済的な視点からも「有償ボランティア」に注目する。			
<b>【研究目的】</b> 三重県紀北町で実施された有償ボランティア・ドライバーが参加するライドシェア型の地域公共交通施策が有効かを探る『紀北町「あいのり運送」実証事業』をとおして、その運営に対する協力メンバーに有償ボランティア形式の人材を活用する有意性を示し、そのインセンティブの設計視点を明らかにする。			
<b>【結論】</b> 紀北町で実施した実証事業に協力頂いたボランティア・ドライバーに対するアンケートと聞き取り調査を通して、有償ボランティアの持つ有意性と特質を示し、特に退職者や準退職者が協力するケースで認められる彼らの内にある「プロ意識重視⇔自発性重視」という意識軸を示し注目する。その上で、複数のインセンティブを組み合わせる考え方とその必要性について明らかにした。			
以下、章構成に従って要旨を示す。			
<b>【第2章 インセンティブと有償ボランティア】</b> 論展開の前提としてインセンティブの定義を示し、いくつかの分野における先行研究を検討したうえで、有償ボランティアについて概観する。			
まず、動機を動因とインセンティブ（誘因）に分けて理解し、次の様に考える。			
動機＝動因＋インセンティブ			
動 因      : 対象者が内的に抱く目標設定とその達成を意識化するそれぞれの過程 インセンティブ: 対象者に外的に提供される誘因を指し、			
報酬としては金銭的、非金銭的を含む			

ふりがな 氏 名	いづたに かずあき 泉谷 和昭
-------------	--------------------

唐崎 (2009) らの農業・農林体験活動の理解モデル、桜井 (2002) (2007) の一般的なボランティア活動に対する参加動機に関するもの、小野・山内 (2002) の経済学視点からのボランティア動機の研究を取りあげ、具体的なインセンティブ設計では動因に対応したインセンティブがいかに関係するかを具体的な条件下で検討する重要性を示す。

続いてインセンティブの提供手段として、「有償ボランティア」を概観する。有償ボランティアは比較的低い金額の金銭または物品を謝礼として受け取る形式で、ボランティア精神との関係で長く議論があったが、現実的な手段として根付いたと言える。

### 【第3章 ライドシェア型公共交通手段の先行事例『ささえ合い交通』】

ライドシェアが元来、都市部における需要と供給を、情報通信技術を利用してマッチングさせる IT ビジネスとして確立されたが、日本では本来の形式では運行できていない。

しかし、過疎地域での公共交通課題の解決策として注目されている。ライドシェアの特質を論じた上で、本論の対象となる紀北町「あいのり運送」実証事業の先達となる事例として、兵庫県京丹後市丹後町で実運行されている『ささえ合い交通』を取り上げる。

### 【第4章 有償ボランティア・ドライバーによる紀北町「あいのり運送」実証事業】

同実証事業の背景と内容を詳述し、調査・研究手法を提示する。紀北町は過疎地域であり、高い高齢化率を示している基礎自治体で、町内のタクシー事業者も事業撤退 (2016) し、多くの交通空白地を抱える。

主たる調査方法は全 8 名の有償ボランティア・ドライバーに対し、実証事業の前後に実施したアンケートと事業終了後のアンケートと同時に実施した聞き取り調査の分析である。聞き取り調査の原データをもとに、質的研究手法の一つである SCAT (Steps for Coding and Theorization) を用いてストーリーラインを構成し分析、考察を加える手法を採った。

### 【第5章 結果と分析】

SCAT 分析より、その代表要素からクラスター分析を行い、ボランティア・ドライバー群を構成してドライバーの「プロ意識重視⇔自発性重視」という意識軸を明らかにした。加えて、インセンティブ設計における複合化の重要性を示した。

### 【第6章 結論】

本論で示した前述結論の知見は、コミュニティにおける公共施策を円滑、効果的に推進するために有意に機能することが期待でき、経常的に便益を提供しつづける様なコミュニティ活性化策を設計・推進する際に有意に機能すると考えられる。

### 【付論】

他のインセンティブ機能を持つ仕組みとして「地域通貨」と「コミュニティポイントシステム」について取り扱う。

以上